



能美電の思い出

能美電なつかしい名前



昭和初期の新寺井駅風景

一人で電車に乗って出掛けた記憶はないが、線路脇でよく遊んだ記憶が残っている。

すぐ先の濁池の無人停車場が遊び場所。電車の線路に五寸釘を置いて電車をプレスがわりに使うなど、身近なものはことごとく遊びの道具に変えてしまった。

いまは能美市に生まれ変わった。鉄の線路はなくなったが、心の絆はガッチリ鋼鉄の線路で繋げてほしい、繋がるだろう。

砂場三郎『濱ンガッコ』より

優しい能美電の車掌さん（三ツ屋町）



駅のすぐ横の踏切が家から見えました。電車がすでに駅に来ていたけれど、踏み切りの遮断機が上がってからお父さんが駅に向かってても電車は待っていてくれました。

来丸駅に向かった小学生の集団は、電車が警笛を鳴らすと一斉に走り出すのですが児童の中に体の弱い子がいて、乗り遅れないようにと児童達が2mづつ間を空けて一直線になり駅まで走

り時間を稼いで最後の子が乗れるように助けあっていました。

電車の車掌さんも全員が乗り込むまで温かく待っていてくれました。とても優しい車掌さんでした。

貸切電車でお嫁入り（山田町・中ノ庄町）

終戦後の間もない頃、根上町中ノ庄から山上村北市へ能美電に乗って輿入れされたと聞きました。このお嫁入りの電車は中ノ庄駅から徳久駅まで貸切運行だったとの話も聞きました。

客車2両編成で男車両と女車両が暗黙のルール（岩本町）



来丸付近の2両編成電車

2両編成の電車で、前車両には女性、後部車両には男性が乗り込むのが、極当たり前のような慣習になっていました。規則があった訳ではないのですが、何となく利用者間で暗黙のルールがあったみたいで、誰も文句も言わずに守っていました。